

平成 26 年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文中学生の部 最優秀賞  
(国土交通大臣賞)

「土砂災害の報道を通して」

福島県 南相馬市立原町第二中学校 1年 <sup>みやはら</sup>宮原 <sup>ゆきと</sup>由気人

「ほら、サラサラして握っても固くならないだろう。これが『まさ土』だよ。」と、父が見せてくれたのは不思議な土だった。水を含むとサラサラになり、水が抜けると固くなる。砂浜でトンネルを作って遊んだ時は、砂に水をかけると固まったのに、逆になるものもあることを初めて知った。

「この土がある所に大雨が降ると、崩れやすくなる。特に、阿武隈山系には花崗岩が風化してできた『まさ土』が多いから、土砂崩れしやすい所がたくさんあるんだよ。」そう父は教えてくれた。

今年の夏も、台風や大雨でたくさんの被害が出た。特に、広島市で起きた土砂崩れでは、たくさんの人が亡くなったり、家が土砂に押し流されてつぶされたりするなどの大きな被害が出た。そのニュースを見ながら、僕はあらためて土砂災害の恐ろしさを知った。

僕が住んでいる南相馬市でも、8月1日に1時間に100ミリを観測する雨が降った。それまで晴れていた空が急に曇り、突然雷が鳴ったかと思うと、ポツポツという音と共に降ってきた大粒の雨。前が見えなくなる程のどしゃぶりだった。僕は弟と一緒に家にいたが、このまま降り続いたらどうなるのだろうと不安になった。

震災以降、地震や津波などへの対策は、学校の避難訓練などで教わっている。だから、地震が起きてからの行動や避難する場所などの心構えはできていると思っていた。しかし、ゲリラ豪雨や土砂災害などのニュースを見ているうちに、こうした災害への対処は、よくわかっていないことに気づかされた。もし、学校から帰る途中でゲリラ豪雨のような激しい雨にあったら、どうすればいいのか。土砂崩れが起きそうな時は、どの道を通して、どこに避難したらいいのか。

広島市の災害の後、新聞には災害に対処するための様々な情報が書かれていた。そこから、局地的大雨の実況と予測が「ナウキャスト」でわかること、インターネットで「土砂災害危険箇所」を検索すると各県の情報がわかることを知った。福島県内の土砂災害危険箇所は、8,689カ所に上ると書いてあったので、早速インターネットで調べてみた。すると、土石流や地すべり、急傾斜の危険箇所について地図に色別で載っていた。僕の住宅周辺や通っている中学校、登下校の道は、危険を示す色ではなかったので安心した。

ところが、広島で起きた災害現場の多くが、土砂災害警戒区域に指定されていなかったという報道を聞いて、僕はびっくりした。広島市だけではない。土砂災害の恐れがあるのに、警戒区域の指定がされていない所が日本全国のあちこちにあるというのだ。それを知って、僕は自分の住む所は本当に大丈夫なのだろうかと思った。危険箇所の情報がなければ、避難方法を考えることはとても難しくなる。そこに住む人が安全な場所だと思いこんでいたら、避難勧告が出ても動かない人も出るだろう。それなのになぜ、警戒区域に指定されていないのだろう。調査中だったなど理由はいくつかあるそうだが、その中で僕が気になったのは「地価が下がるので危険区域に指定されたくない、という人がいるから」というものだ。「危ない場所だと言われると、宅地開発ができなくなったり、土地の価値が下がったりする。観光地だとイメージが悪くなって、観光客が減る。だから、警戒区域に指定しようとしても反対する人がいるんだよ。」と父が教えてくれた。住民の反対があると、危険箇所に指定できない場合があるそうだ。自分の命の方が大切だと思うのに、どうして反対する人がいるのか僕にはわからない。しかし、今回の災害によって、「土砂災害防止法」が改正され、警戒区域の指定がしやすくなる、と聞いて僕はほっとした。

自然災害はいつ起こるかわからない。また、土砂災害危険箇所の指定がない所でも、実は危険な場所がある。広島市の土砂災害は決して他人事ではないのだ。自分が住んでいる所にもっと関心をもち、もし自分だったらどうするかということをもっと考えていかなければならないと思った。ナウキャスト、土砂災害危険箇所の情報、2015年から導入される予定の電子防災情報など、自分を守るために使える情報はたくさんある。大雨の時、家にいていいのか、避難しなければならないのか、どこにどうやって避難すればいいのか。気象庁や市から出される警報だけに頼るのではなく、自分で考えて行動することが大切なのだ。僕は土砂災害の報道を通して、そのことに気づくことができた。自分や家族の命を守り、危険を乗り切っていくために、どのように行動すればいいかを、これからは、家族と一緒にもっとしっかりと考えていこう。